



子どもたちのラムサール学習と交流

湿地の環境を守っていくため、子どもたちが地域の自然にふれて学ぶ活動に取り組んでいます。身近な湖や川だけでなく、ほかの県や国の湿地で活動する人たちと交流することもあります。

こどもラムサール交流事業

島根県・鳥取県では、湿地の環境を守る次の世代のリーダーを育てるため、全国の湿地で活動している子どもたちと交流会をおこなっています。全国の湿地を訪れたり、湿地で活動している子どもたちを宍道湖・中海に呼んだりして、交流を通し、さまざまな湿地の魅力を学び、調べ、発信しています。中国や韓国の子どもたちと交流したこともあります。



琵琶湖(滋賀県)での観察会



きらら浜公園(山口県)でのビオトープ整備



藤前干潟(愛知県)での干潟観察



ウポ沼(韓国)での交流会



体験し、調べたことを発表



地域での子どもたちの活動

ラムサール探偵団 (宍道湖グリーンパーク・ゴビウス)

年に5回、バードウォッチングや生き物観察、シジミ漁体験など、体験学習活動をおこなっています。一年の終わりには、活動成果を発表する報告会もあります。対象/小学4年生から中学3年生まで、20人程度
募集期間/毎年4月中旬～下旬

子どもラムサールクラブ (米子水鳥公園)

年に12回、生き物観察、野鳥のための砂浜作り、ゴズ釣りなどを実施。米子水鳥公園、安来の水田、大山ほかさまざまな場所に出かけます。対象/小学1年生から6年生まで、36人程度
募集期間/毎年3月上旬から